

今日のトピック 日本の株式市場（2017年1月）

大型株が堅調。小型株の戻りにも期待

ポイント1 大型株が堅調に推移 「トランプ・ラリー」で鮮明に

■日本株式市場は、2016年11月9日に米大統領選挙でトランプ氏の勝利が伝わった時に円高が進み、下落しました。その後は、トランプ次期米大統領の減税やインフラ政策への期待を背景に米国株式市場が上昇する「トランプ・ラリー」のもと、米国金利の大幅上昇を受けて米ドル高円安も進行したことから、日本株式市場は大きく反発しました。特に、日経平均株価やTOPIX（東証株価指数）に代表される大型株指数の上昇が顕著となりました。

ポイント2 小型株は出遅れ

1月に入ってかい離は縮小傾向

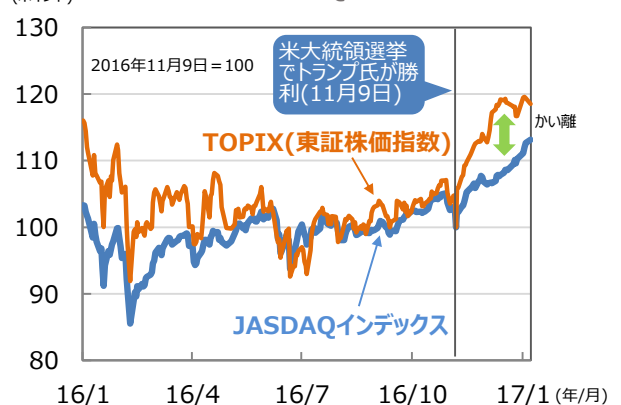
■JASDAQインデックスなど小型株を代表する指数も堅調に推移していますが、大型株に対して出遅れる展開となりました。流動性の潤沢な大型株に資金が流れたことや利益確定の売り圧力が高まったことなどが主な要因であり、小型株の企業業績が悪化したわけではありません。

■2017年1月に入ってから、出遅れていたJASDAQインデックスは順調に回復しており、TOPIXとのかい離も縮小しています。騰落レシオから見た大型株（東証1部市場）の過熱感も一段落しています。

今後の展開 日本株式への期待続く

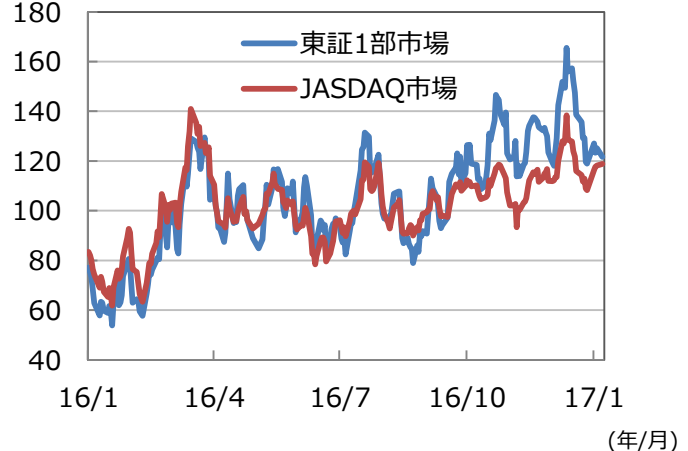
■今後は米新政権の政策内容が焦点ですが、ドル高基調が続けば日本株式への期待は続くと思われます。不透明感も強い状況です。こうした中、ファンダメンタルズのしっかりした内需系の企業を中心に中小型株も堅調に推移することが期待されます。

TOPIXとJASDAQインデックス



(注) データは2016年1月4日～2017年1月11日。
(出所) QUICKのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

騰落レシオ（25日平均）の推移



(注1) データは2016年1月4日～2017年1月10日。
(注2) 騰落レシオ：値上がり銘柄数÷値下がり銘柄数。市場の過熱感を判断する指標。100%が中立。120%以上は買われ過ぎ、70%以下は売られ過ぎとするのが一般的。
(出所) QUICKのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック! 2016年12月27日 2017年の米国経済及び株式・債券市場の見通し
2016年12月27日 2017年の日本経済及び株式市場の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。